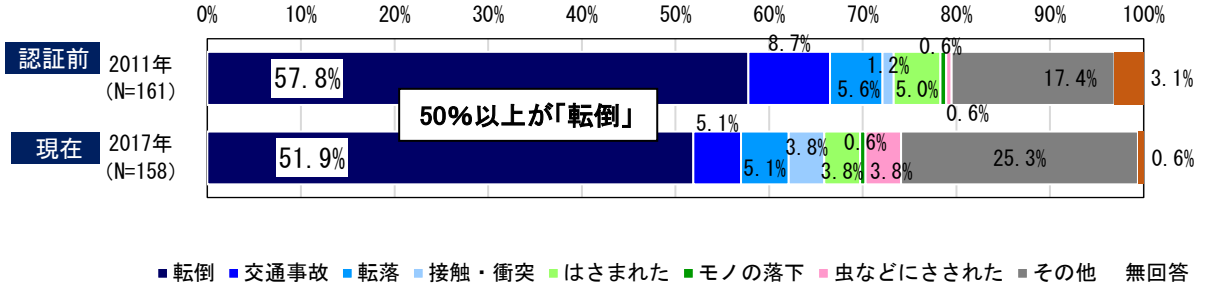
第2章　死亡やけが･事故などの状況

５　高齢者のけがに関する状況

①けがの原因・場所

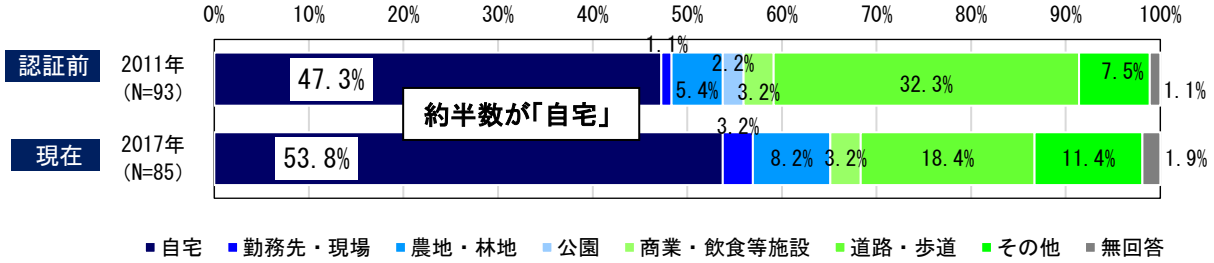
高齢者にけがの原因についてアンケートしたところ、50%以上が「転倒」であり、けがをした場所については約半数が「自宅」となっています。

図表　「高齢者のけがの原因」



出展：久留米市のセーフコミュニティに関する実態調査

図表　「高齢者が転倒した場所」



出展：久留米市のセーフコミュニティに関する実態調査

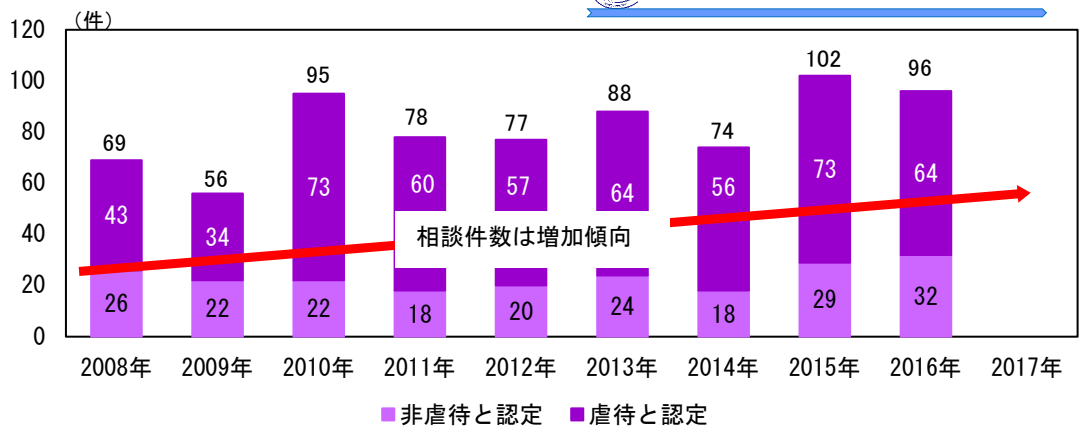
7　虐待・ＤＶに関する状況

③高齢者虐待の相談・認定件数の推移

高齢者虐待の相談件数については、年によって増減はありますが増加の傾向にあります。

図表　高齢者虐待に関する相談件数と認定件数

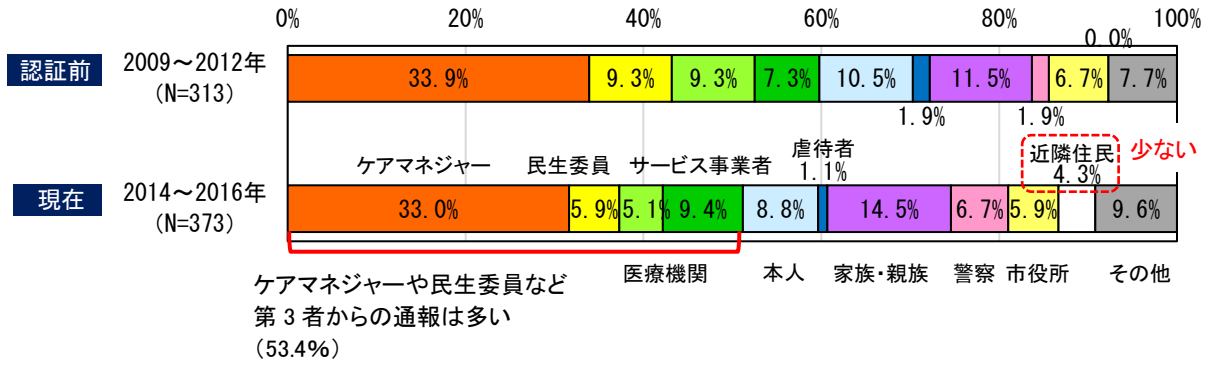
出展：久留米市長寿支援課集計



④経路別の相談・通報件数の割合

通報・相談経路を見ると、ケアマネジャーや民生委員などの第３者からの通報は多いですが、近隣住民などからの通報は少ない状況です。

図表 経路別虐待相談・通報件数の割合



出展：久留米市長寿支援課統計

久留米市セーフコミュニティ
高齢者の安全対策委員会

発表日　2018年　　月　　日
発表者　高齢者の安全対策委員会委員長
所　　属（公社）福岡県作業療法協会　濱本　孝弘

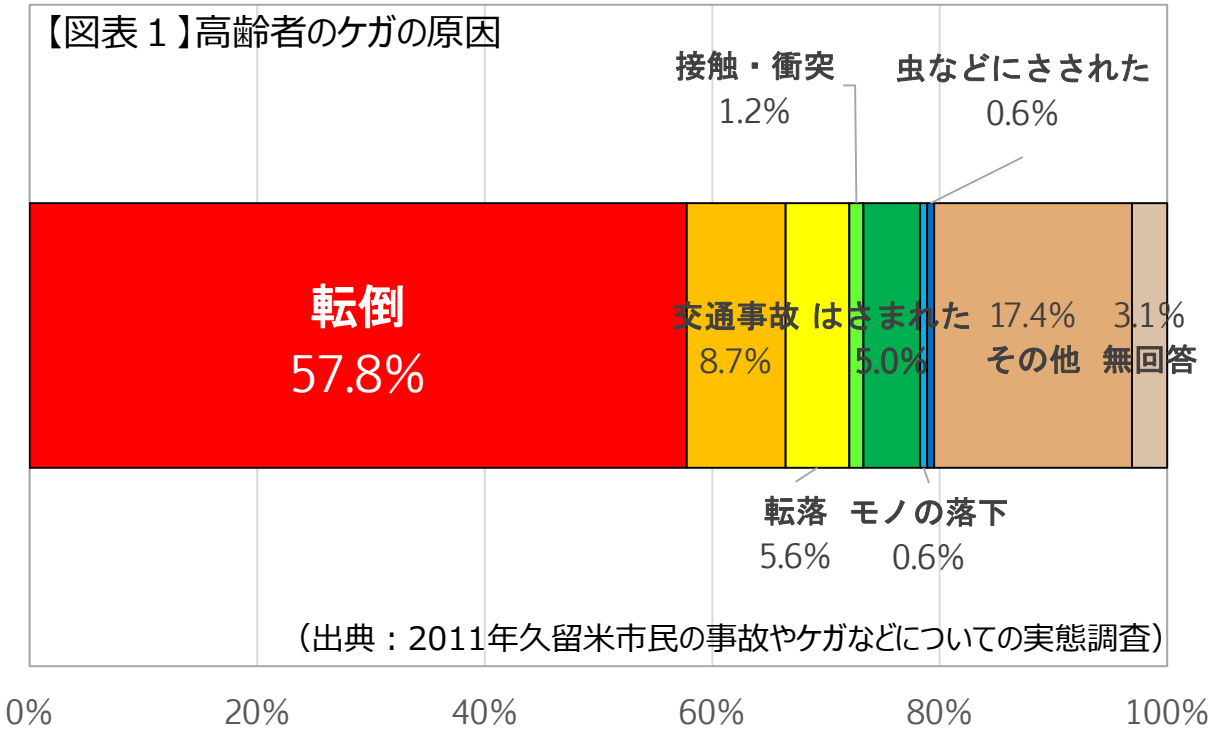
1　高齢者の安全対策委員会の構成メンバー

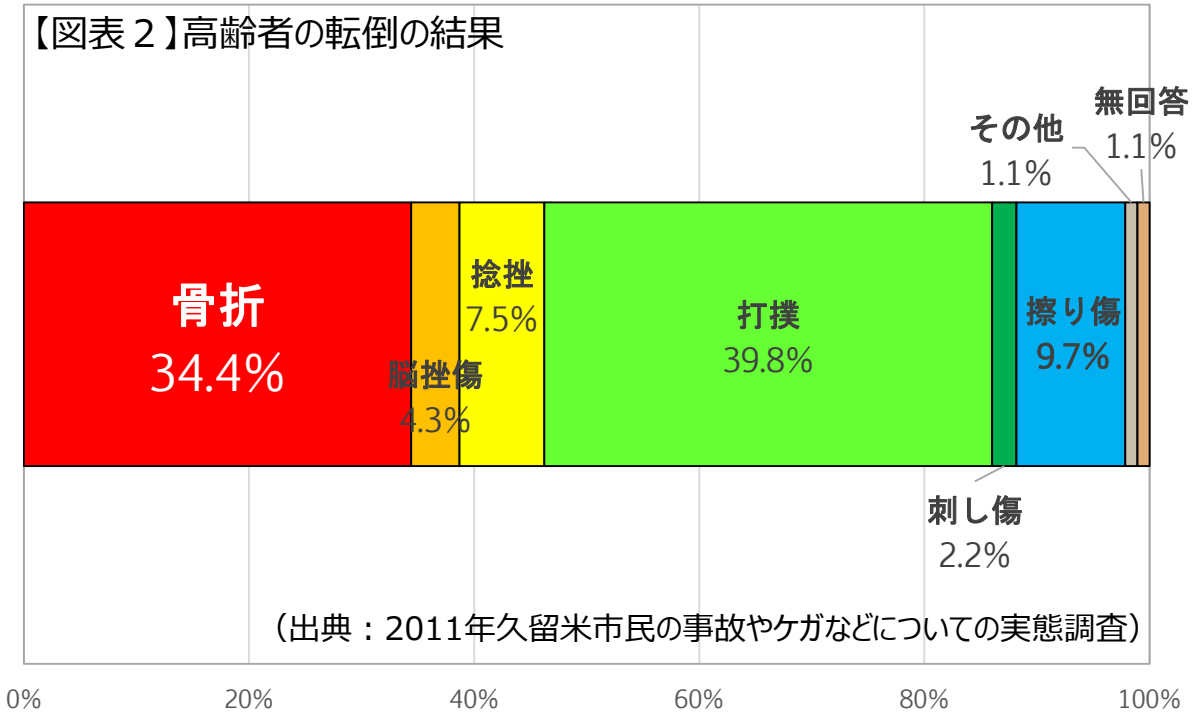
区　分	所　属	
住民組織等	1	久留米市民生委員児童委員協議会
	2	久留米市老人クラブ連合会
	3	（社福）久留米市社会福祉協議会
	4	（公社）福岡県作業療法協会
	5	（特活）久留米介護福祉サービス事業者協議会
	6	（特活）くるめ地域支援センター
関係機関	7	久留米警察署（生活安全課）
行政機関	8	久留米市健康福祉部地域福祉課
	9	久留米市健康福祉部介護保険課
	10	久留米市健康福祉部保健所健康推進課
	11	久留米市健康福祉部長寿支援課

2　高齢者安全対策委員会の開催経過（認証後）と主な議題

回数	開催日	主な協議事項
第12回	2014.6.10	2013年度取り組み実績、2014年度取り組み方針
第13回	2014.10.30	年間活動報告、進捗状況、セーフコミュニティフェスタ
第14回	2015.4.22	2014年度取り組み実績、2015年度取り組み方針
第15回	2015.9.16	全市一体となった啓発・裾野拡大の取り組み、セーフコミュニティフェスタ
第16回	2016.4.15	2015年度取り組み実績、2016年度取り組み方針 これまでの取り組みに関する効果確認・改善
第17回	2016.11.25	具体的施策の検証
第18回	2017.4.26	2016年度取り組み実績、2017年度取り組み方針 再認証事前指導のプレゼン資料　　ケガや事故の実態調査
第19回	2017.7.19	再認証事前指導のプレゼン資料、セーフコミュニティフェスタ
第20回	2017.10.23	再認証事前指導
第21回	2018.2.7	再認証事前指導の講評への対応、セーフコミュニティ実態調査結果の活用について
第22回	2018.4.13	2017年度取り組み実績、2018年度取り組み方針

2-1　①高齢者の安全対策委員会の必要性（設置の背景）

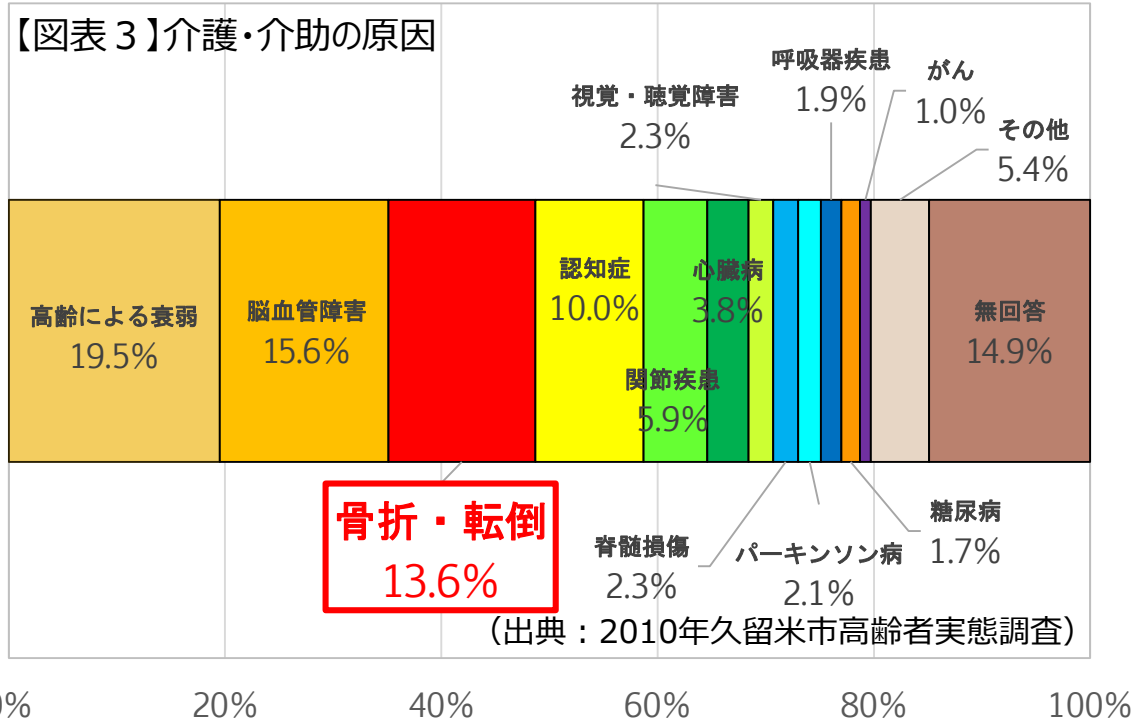


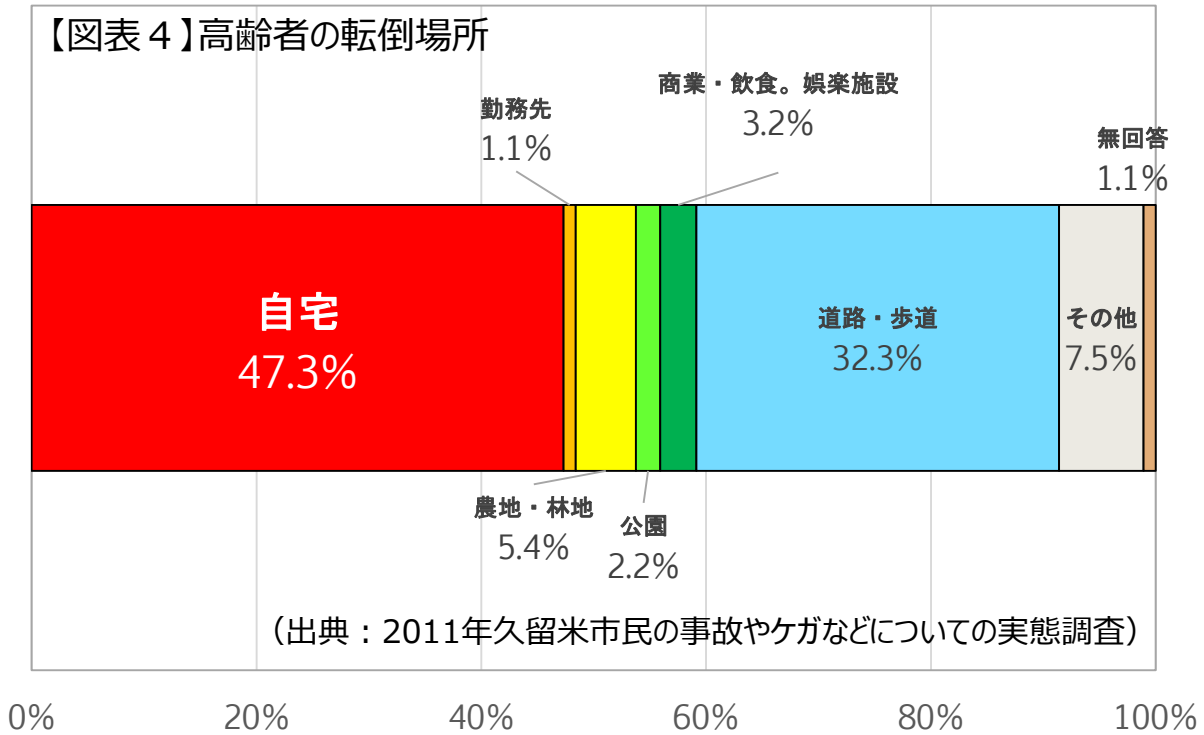


高齢者のけがの原因の半数以上は転倒

高齢者の転倒は骨折につながることが多い

2-1　②高齢者の安全対策委員会の必要性（設置の背景）



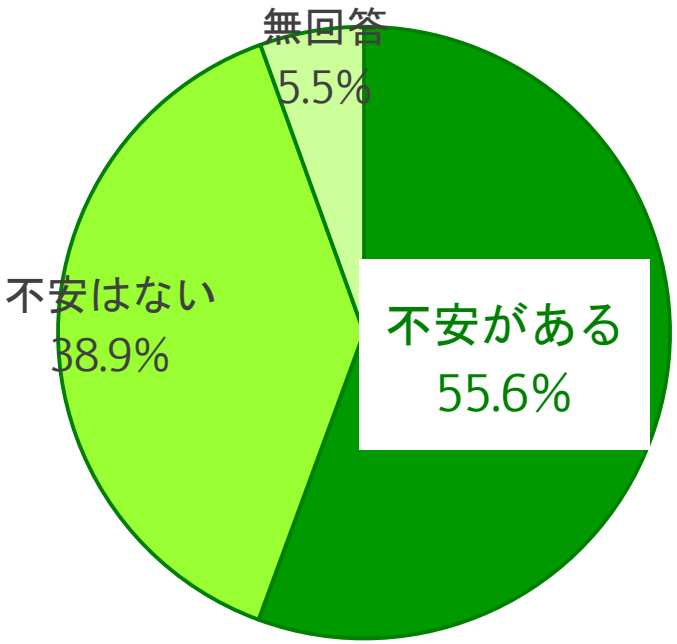


介護が必要となった主な原因は骨折・転倒

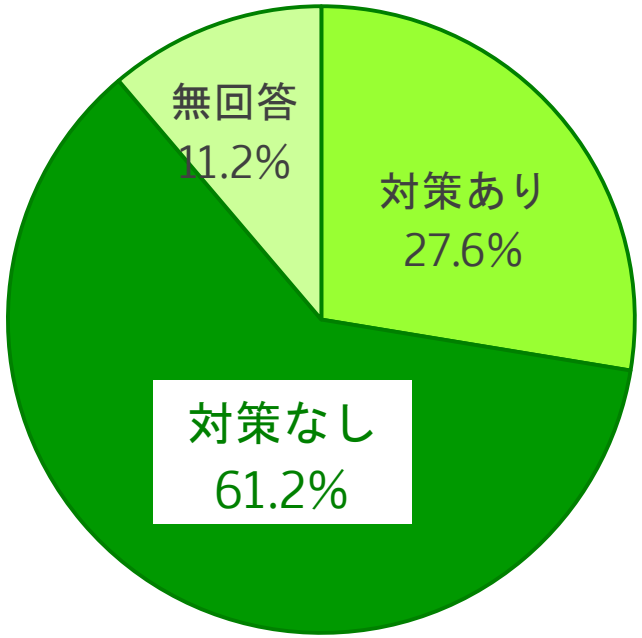
高齢者の転倒場所の約半数は自宅

2-1　③高齢者の安全対策委員会の必要性（設置の背景）

【図表５】転倒に対して不安のある高齢者の割合
（出典：2011年久留米市民の事故やケガなどについての実態調査）



【図表６】転倒防止のための対策の有無
（出典：2011年久留米市民の事故やケガなどについての実態調査）



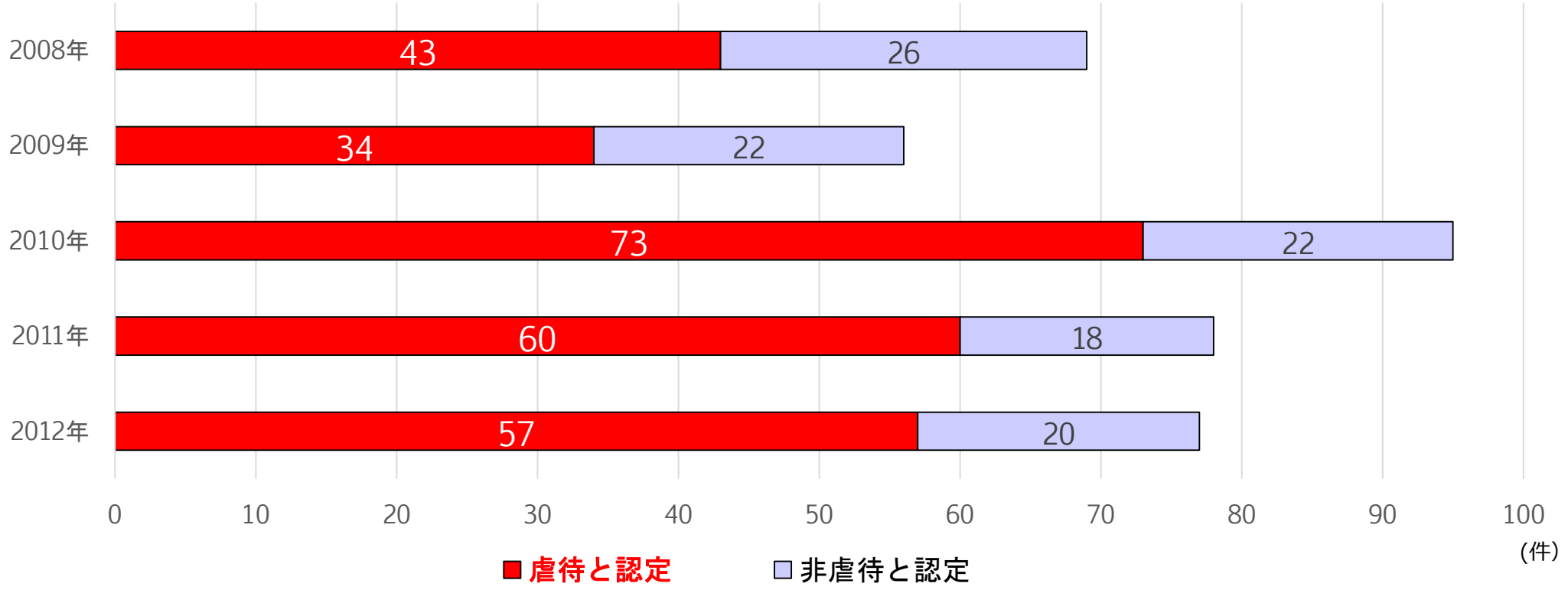
※「不安がある」は「不安を感じる」と「やや不安を感じる」の合計
※「不安はない」は「不安を感じない」と「あまり不安を感じない」の合計

半数以上の高齢者が転倒に対し不安

約60%の高齢者は、転倒防止の対策を講じていない

2-2 ①高齢者の安全対策委員会の必要性（設置の背景）

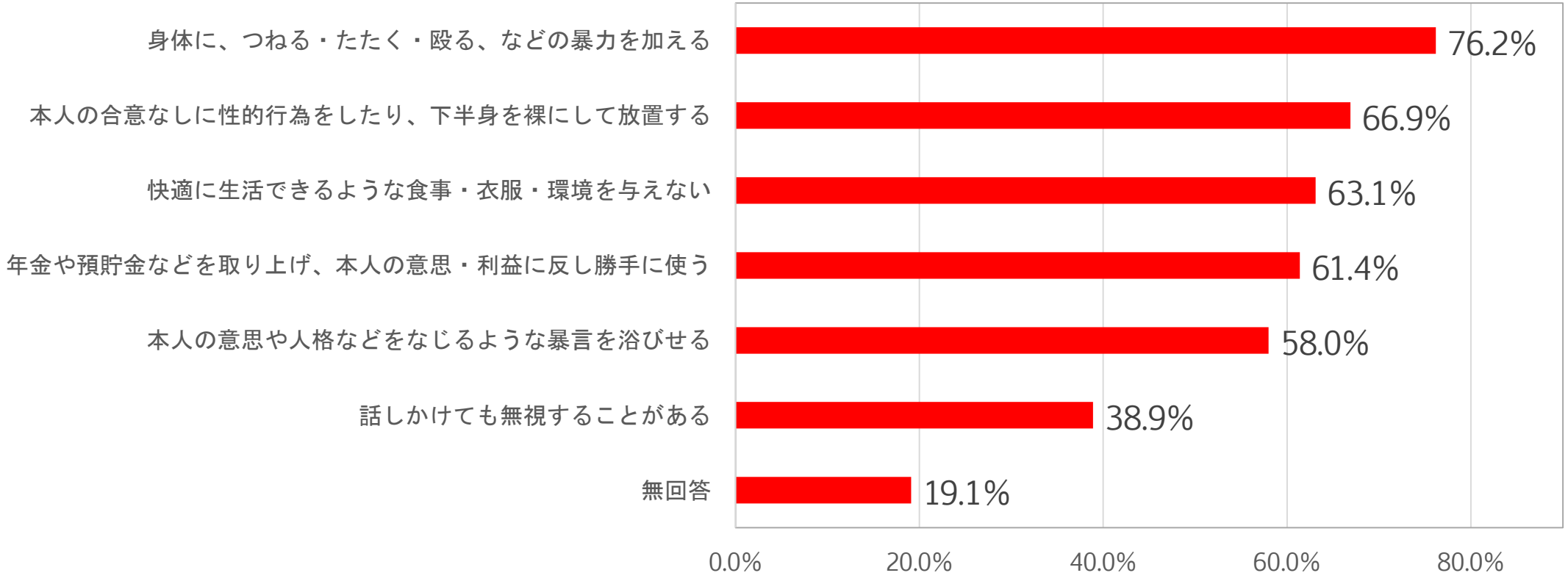
【図表７】虐待発生件数の推移　（出典：2008～2012年長寿支援課統計資料）



虐待件数は年間５０件以上で推移している

2-2　②高齢者の安全対策委員会の必要性（設置の背景）

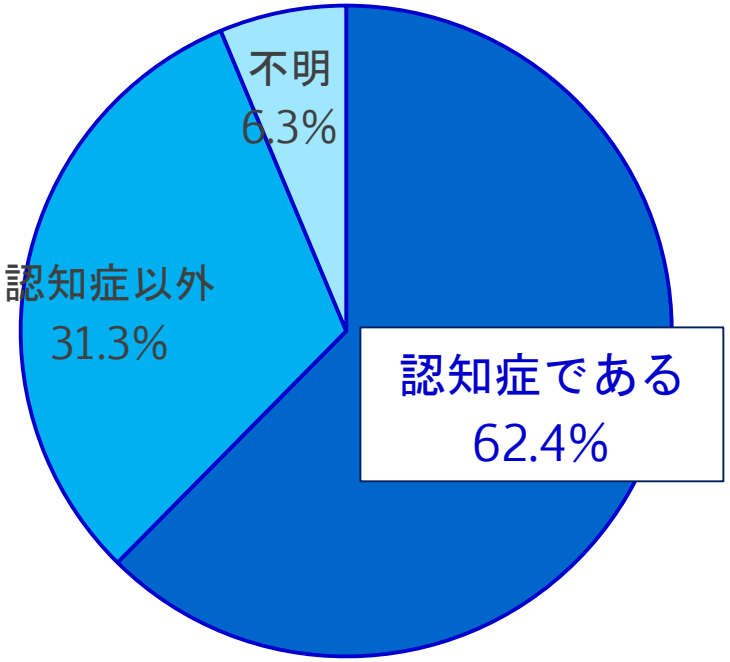
【図表８】虐待に該当すると思う行為（出典：2010年久留米市高齢者実態調査）



虐待を正しく理解しきれていない人たちが少なくない

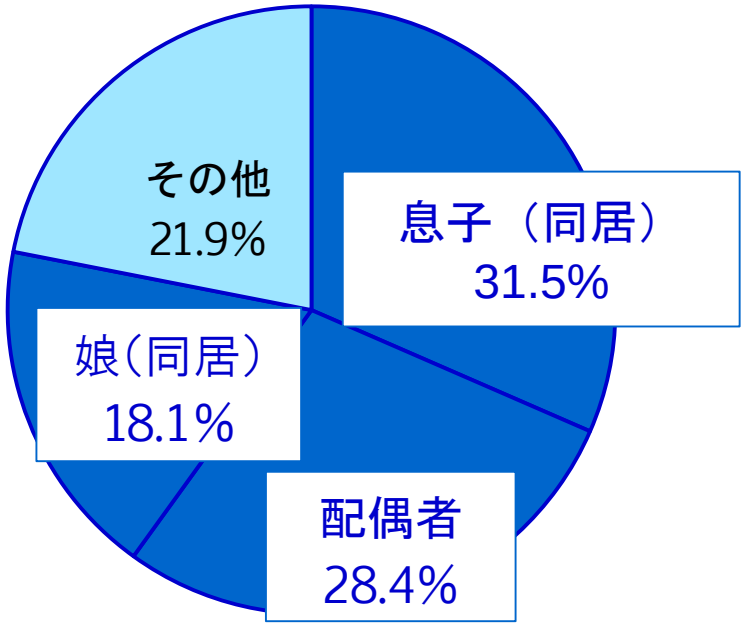
2-2 ③高齢者の安全対策委員会の必要性（設置の背景）

【図表９】被虐待者における認知症の有無
（出典：2009～2012年長寿支援課統計資料）



虐待認定事例の約６割が認知症高齢者

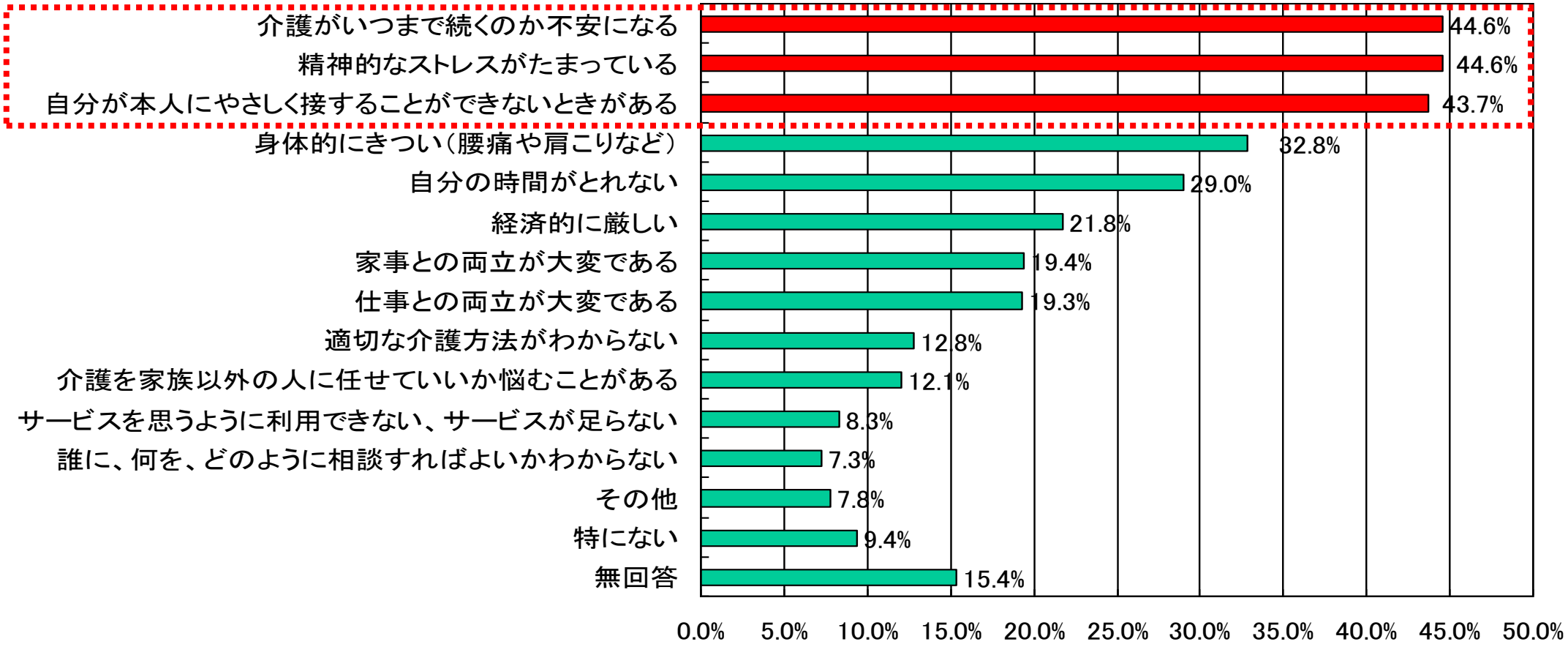
【図表10】虐待者の構成
（出典：2009～2012年長寿支援課統計資料）



虐待の多くが同居の親族（介護者）

2-2 ④高齢者の安全対策委員会の必要性（設置の背景）

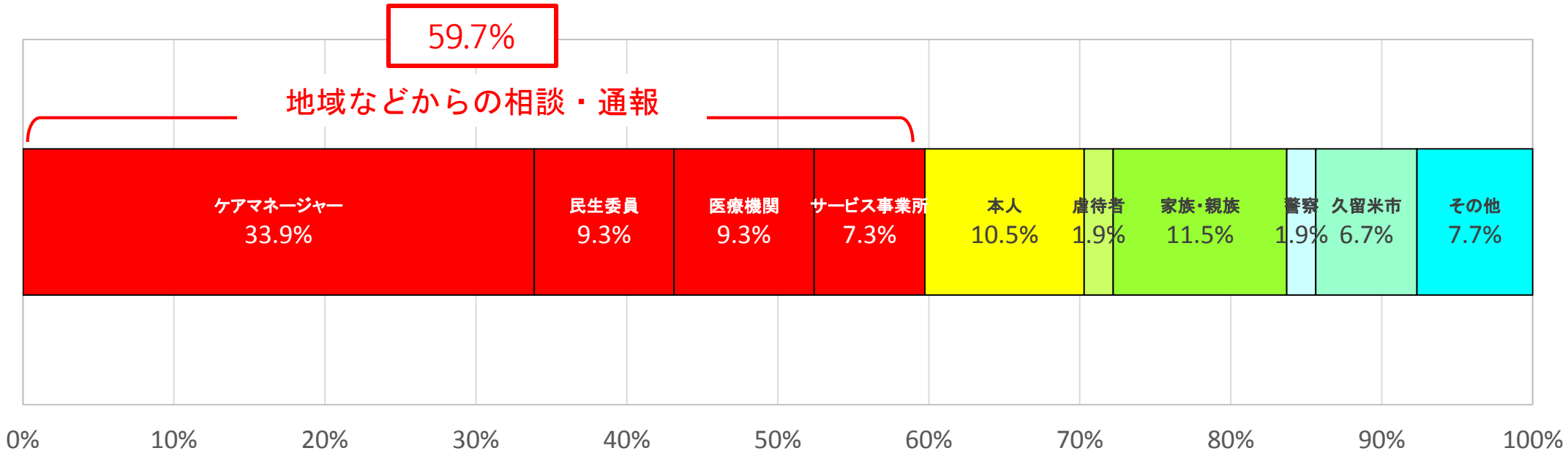
【図表11】在宅介護における困難な点（出典：2010年久留米市高齢者実態調査）



在宅介護者は精神的なストレスにより不安定な状態に陥りやすい

2-2 ⑤高齢者の安全対策委員会の必要性（設置の背景）

【図表12】虐待に関する相談・通報経路（出典：2009～2012年長寿支援課統計資料）



地域からの虐待に関する相談・通報は約60%程度

3-1　課題の整理（高齢者のケガの防止について）

高齢者のケガの原因の半数以上は転倒　【図表1】
高齢者の転倒は骨折につながることが多い【図表2】
介護・介助の主な原因は骨折・転倒　【図表3】

半数以上の高齢者が転倒に対し不安を感じている【図表5】

- 高齢者の転倒は骨折リスク大
- 転倒に対する不安の大きさ

ケガの防止

- 転倒は身近な場所で多く発生
- 転倒防止対策への意識の低さ

高齢者の転倒場所の約半数は自宅【図表4】

約60%の高齢者は、転倒防止の対策を講じていない【図表4】

重点課題①転倒予防

3-2　課題の整理（高齢者の虐待防止について）

被虐待者の約60%が認知症【図表9】

虐待を正しく理解しきれていない【図表8】

- 高齢者虐待と認知症との関連
- 虐待に対する意識の低さ

高齢者の虐待防止

- 本人や家族からの相談・通報の少なさ
- 在宅介護のストレスの大きさ

地域からの虐待に関する通報が約60%を占める【図表12】

虐待事例の多くが同居親族によるもの【図表10】
在宅介護者はストレスにより精神的に不安定に陥りやすい【図表11】

重点課題②啓発および早期発見

4　優先的に取り組む重点課題

転倒予防

①転倒リスク、危険要因の周知

②転倒予防対策の実践

高齢者の虐待防止

③虐待や認知症に関する啓発の推進

④虐待の早期発見、介護者への支援

5　課題解決のための方向性と対応（具体的施策）

【図表13】

課　題	方向性	No	見直し追加	具体的施策
転倒リスク、危険要因の周知	転倒の多い自宅内の危険箇所の周知	1		転倒予防に関する普及・啓発 （旧：転倒に関するパンフレットの作成）
転倒予防対策の必要性の認識と実践	転倒しない、転倒しても重大事故に陥らない体作り	2	2017	介護状態にならないための予防事業の実施 （2017年からNO3に統合）
		3		転倒予防のための健康づくり、体力維持、介護予防 (にこにこステップ運動、健康ウォーキング、生きがい健康塾) （旧：健康、体力維持を目的とした地域活動への支援）
虐待や認知症に関する啓発の推進	認知症や虐待の理解を促す	4		虐待や認知症に関する講演会・学習会の開催
		5	2017	認知症サポーター養成講座　（2017年からNO４に統合）
	発見ルートの確保・相談しやすい環境づくり	6		介護サービス提供事業所向けの虐待防止研修
虐待の早期発見、介護者への支援	家族の不安及び負担の軽減	7		地域で高齢者を見守るネットワークの構築
		8	2017	家族介護教室の開催　（2017年からNO４に統合）
		9	2017	ものわすれ予防検診　（2017年から除外）

6 レベル別の対策（具体的施策）

【図表14】

課　題	対　策			
	方向性	国県レベル	市レベル	地域レベル
転倒リスク、危険要因の周知	教育・啓発		窓口・イベント等での周知	関係団体による研修等
	規制		【対策委員会】 転倒予防パンフレットの作成・配布	
	環境整備			
転倒予防対策の実践	教育・啓発		介護予防事業、ラジオ体操の推進	ウォーキング大会、介護予防サポーター養成
	規制		【対策委員会】 現行の転倒予防に対する取り組みの整理と統合。効果の評価	
	環境整備	介護予防事業の見直し		
虐待や認知症に関する啓発の推進	教育・啓発	新オレンジプラン	認知症サポーター養成	認知症サポーター養成
	規制		【対策委員会】 サポーター養成進捗状況の確認、対象者の検討	
	環境整備	高齢者虐待防止法		
虐待の早期発見、介護者への支援	教育・啓発		家族介護教室	地域や関係機関からの通報、地域ケア会議、見守りネットワーク
	規制		【対策委員会】 委員からのケース報告を参考に周知の対象や方法などを検討（事業者向け研修の活用など）	
	環境整備		ネットワーク構築	

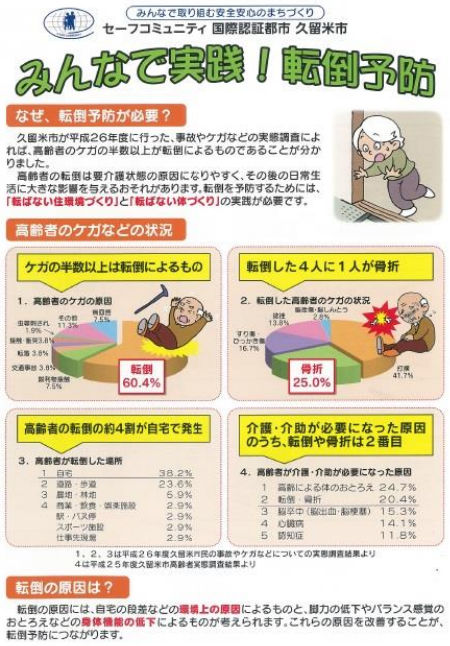
7-1　①具体的施策の紹介
＜転倒予防に関する普及・啓発＞

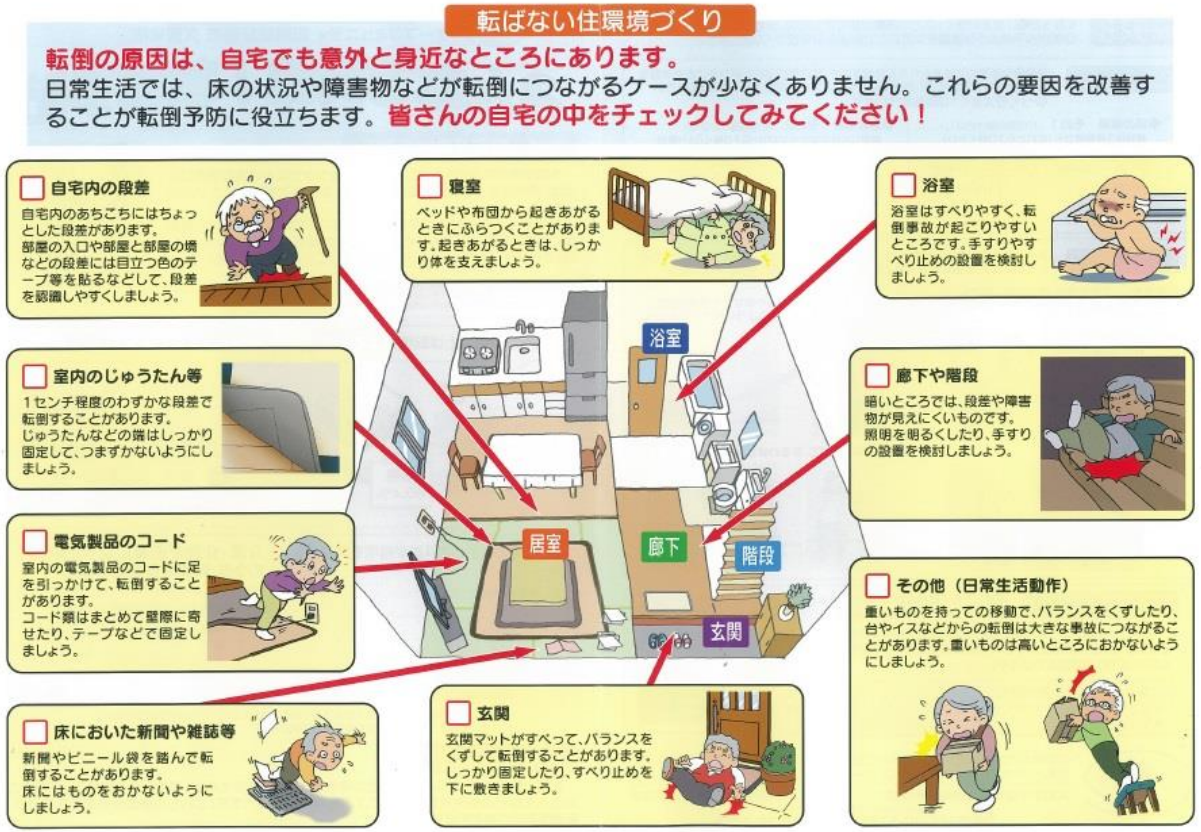
（※旧：転倒に関するパンフレットの作成）

5年間で
約28,000部配付

◆転倒実例、自宅内の危険な場所を例示

◆転倒の危険と転倒予防運動の紹介





7-1　②具体的施策の取り組みの成果（活動・短期・中期・長期）

＜転倒予防に関する普及・啓発＞

【図表15】

指標	内容	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
活動	①介護保険住宅改修講習会参加者数	２６人	１２０人	２０人	１０２人	１００人
	②転倒予防パンフレットの配付数	13,539枚	3,546枚	2,015枚	4,950枚	3,847枚
短期	転倒予防に関する対策の必要性を認識した人の割合〔参加者アンケート調査〕	-	-	-	-	91.4%
中期	転倒を予防するための対策を行う人の割合〔高齢者実態調査〕	56.6%	-	-	57.3%	-
長期	「転倒・骨折」によって、介護・介助が必要になった高齢者の割合〔高齢者実態調査〕	20.4%	-	-	20.8%	-

7-2　具体的施策の紹介
＜介護状態にならないための予防事業の実施＞

5年間で
17,000人参加

◆くるめ元気脳教室

◆ドレミ♪で介護予防！！教室

【図表16】

指標	内容	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
活動	①一次予防事業への参加者数	1,176人	2,595人	3,070人	3,266人	4,650人
	②二次予防事業への参加者数	495人	500人	498人	355人	344人

（※＜転倒予防のための健康づくり、体力維持、介護予防＞へ統合）

7-3　具体的施策の紹介

＜転倒予防のための健康づくり、体力維持、介護予防＞

（※旧：健康、体力維持を目的とした地域活動への支援）

◆健康ウォーキング活動

◆にこにこステップ運動＆スロージョギング教室

【図表17】

指標	内容	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
活動	①健康ウォーキングの参加者数	8,566人	9,711人	8,468人	7,981人	8,868人
	②「市民ラジオ体操の集い」参加者数	1,000人	1,000人	1,000人	1,100人	1,300人
	③にこにこステップ＆スロージョギング教室	-	-	-	3,946人	集計中

7-3　②具体的施策の取り組みの成果（短期・中期・長期）
＜転倒予防のための健康づくり、体力維持、介護予防＞

【図表18】

指標	内容	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
短期 中期	転倒を予防するための対策を行なう人の割合〔高齢者実態調査〕	56.6%	-	-	57.3%	-
短期	健康づくりのために体を動かしたり、運動をしている７０歳以上（１日３０分以上で、週２日以上）の割合〔市民意識調査〕	-	50.7%	46.6%	54.5%	56.7%
中期	高齢者のけがの原因における「転倒」の割合〔事故やケガの実態調査〕	-	60.4%	-	-	51.9%
長期	転倒によってケガをした人数〔救急搬送データ〕	705人	688人	726人	確認中	確認中
長期	「転倒・骨折」によって、介護・介助が必要になった高齢者の割合〔高齢者実態調査〕	20.4%	-	-	20.8%	-

7-4　具体的施策の紹介・取り組みの成果
＜虐待や認知症に関する講演会・学習会の開催＞

◆市民向け虐待防止啓発講座

毎年
5ヶ所開催

◆認知症予防地域講演会

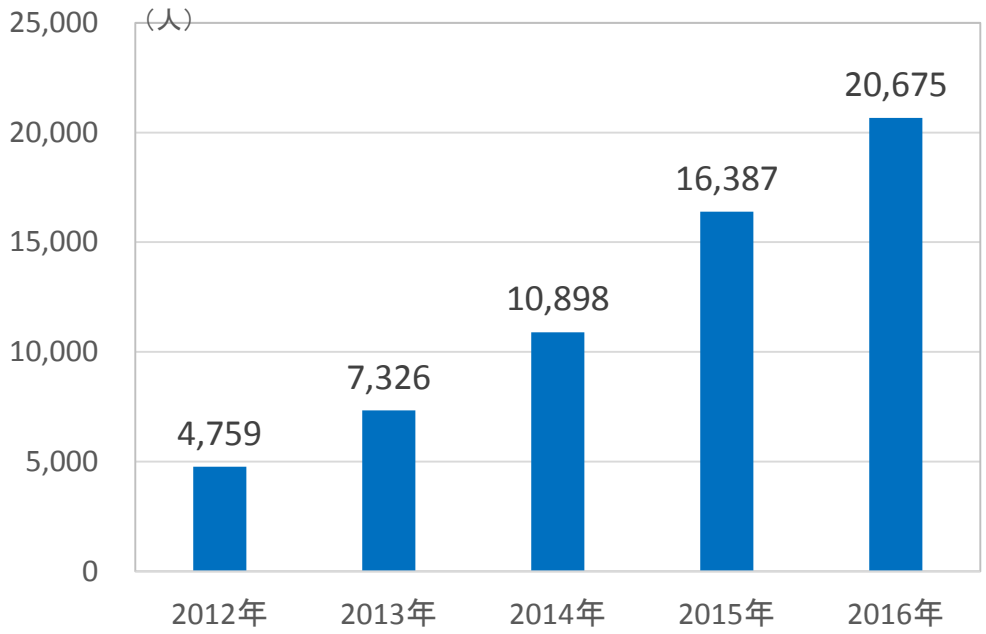
2016年から
3回→5回へ拡大

【図表19】

指標	内容	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
活動	虐待防止や認知症に関する講演会・学習会の回数、参加者数	９回 849人 （うちシンポ400人）	８回 376人	９回 751人 （うちシンポ400人）	１０回 495人	10回 280人
短期	虐待に対する市民の意識向上（各項目に対して虐待と認識した人の割合）〔高齢者実態調査〕	身体的　61.6% 経済的　54.1% 性的　55.6% 介護放棄　51.7% 心理的　53.4%	-	-	身体的　64.7% 経済的　51.2% 性的　54.8% 介護放棄56.6% 心理的　56.2%	-

7-5　具体的施策の紹介・取り組みの成果
＜認知症サポーター養成講座＞

【図表20】久留米市における認知症サポーター数（累計）



（小学校での認知症サポーター養成講座の様子）

【図表21】

指標	内容	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
活動	認知症サポーター養成者数	2,256人	2,567人	3,572人	5,489人	4,288人

※＜虐待や認知症に関する講演会・学習会の開催＞ へ統合

7-6　具体的施策の紹介・取り組みの成果
＜介護サービス提供事業者向けの虐待防止研修＞

【図表22】　（研修の様子）

5年間で
34回　約1,600人参加

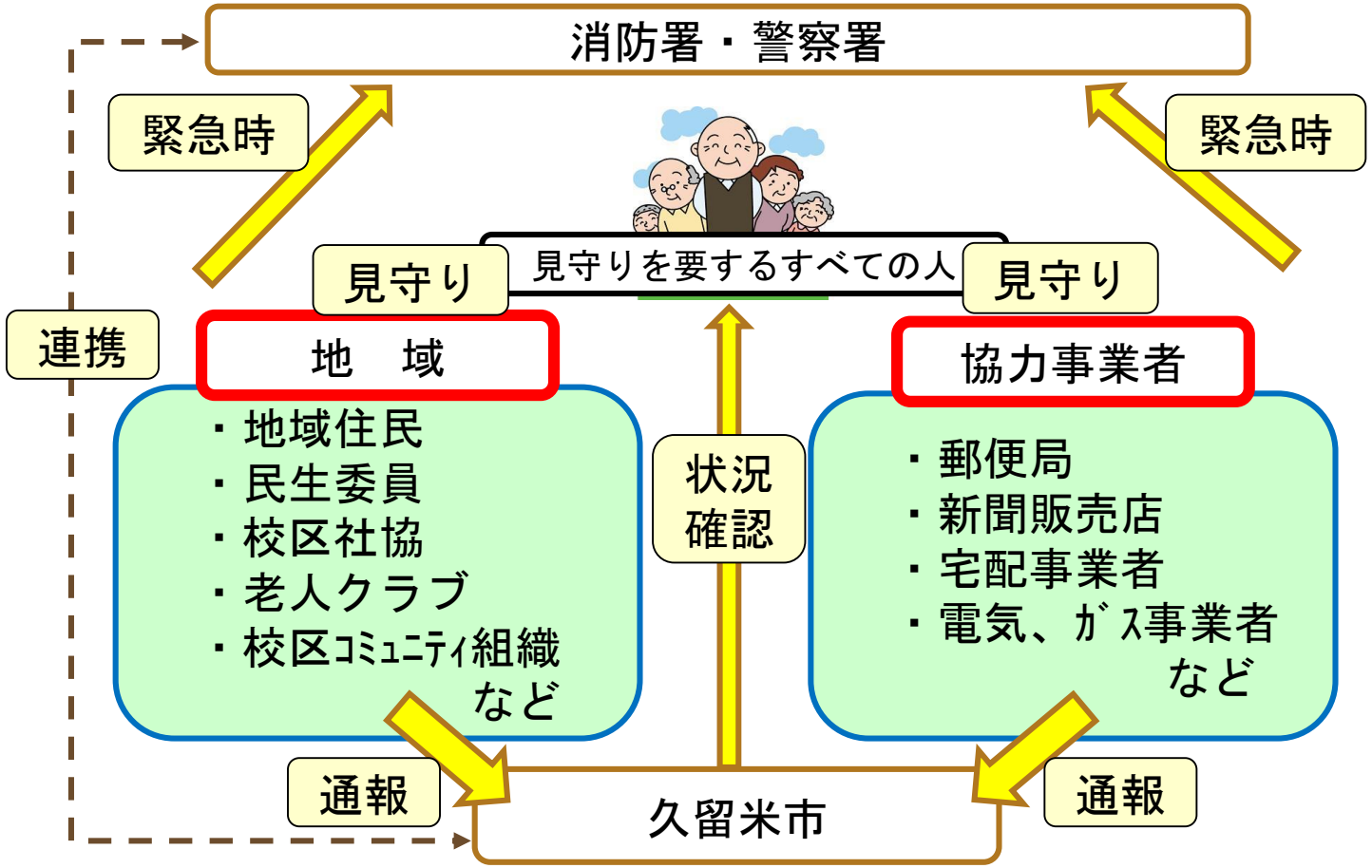
指標	内容	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
活動	介護サービス提供事業者向け虐待防止研修の回数、参加数	8回 292人	7回 300人	7回 346人	5回 273人	7回 340人

7-7　具体的施策の紹介
＜地域で高齢者を見守るネットワークの構築＞

◆地域ケア会議

【テーマ】
- **地域での見守り**
- **認知症**
- **介護予防　など**

◆「くるめ見守りネットワーク」体制イメージ



7-8　具体的施策の紹介・取り組みの成果
＜家族介護教室の開催＞

◆認知症電話相談

◆家族介護教室

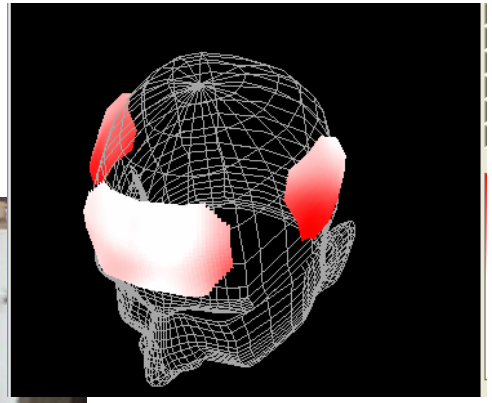
【図表23】

指標	内容	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
活動	家族介護教室の参加者数 〔長寿支援課統計〕	基礎講座 ５９人 認知症講座 ４５人	基礎講座 ７１人 認知症講座 ７１人	基礎講座 ３０人 認知症講座 ４４人	基礎講座 ２７人 認知症講座 ３５人	基礎講座 ２８人 認知症ケア講座 １９人 ストレスケア講座 ２４人
	認知症電話相談件数 〔長寿支援課統計〕	２１人	２１人	１７人	１７人	１０人 ※2017年12月時点

7-9　①具体的施策の紹介・取り組みの成果
＜ものわすれ予防検診＞

◆検診の様子

◆血流測定



【図表24】

指標	内容	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
活動	ものわすれ予防検診の実施回数及び参加者数	-	５回 ９３人	５回 ８９人	5回 ８８人	５回 ８８人
短期 中期	検診の結果、認知症の疑いのある人数 （　）は、その内ものわすれ外来を受診された人数	-	６８人 （２３人）	４３人 （２８人）	３８人 （２２人）	３０人 （２４人）

※2017年以降はＳＣから除外

7-9　②具体的施策の取り組みの成果（中期・長期）

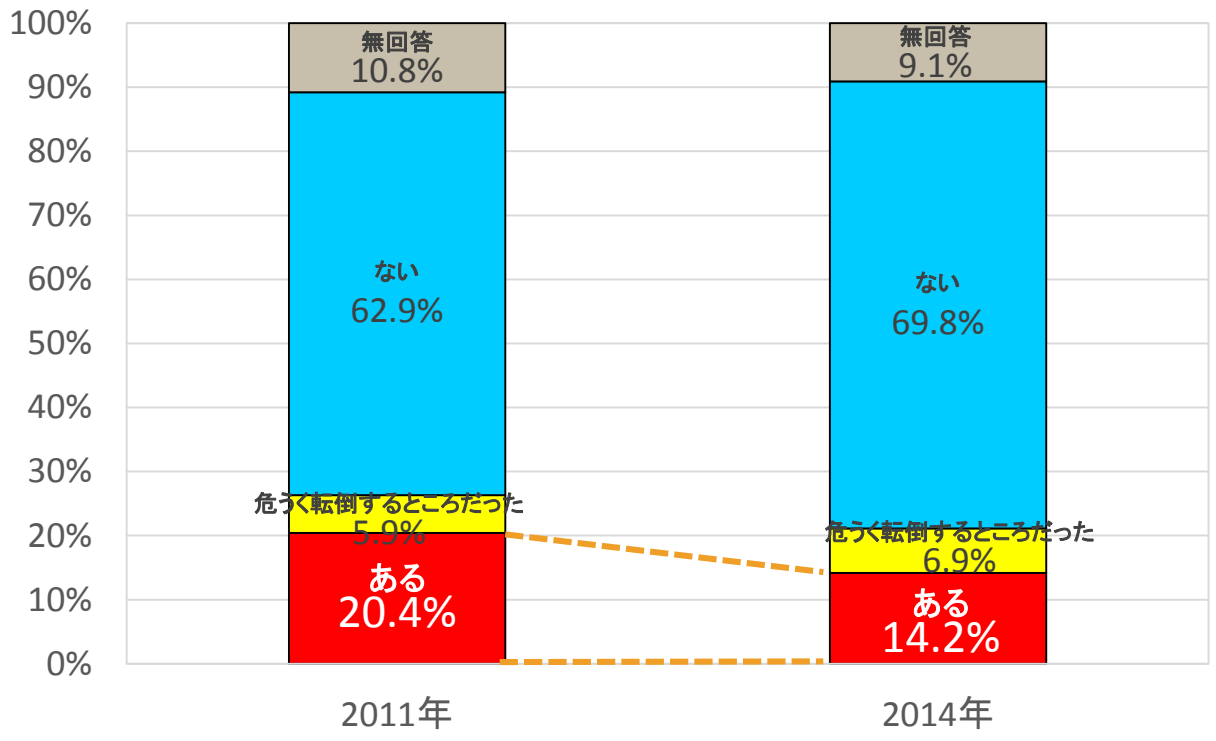
＜相談・通報件数、虐待発生率 抜粋＞

【図表25】

指標	内容	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
中期	地域や事業者からの相談や通報件数の割合（地域や事業者からの通報件数/全通報件数）〔長寿支援課統計〕	60.2% (88件中53件)	51.4% (74件中38件)	56.9% (102件中58件)	52.1% (96件中50件)	集計中
長期	虐待発生率（虐待発生件数/高齢者人口）〔長寿支援課統計〕	0.088%	0.074%	0.094%	0.081%	集計中

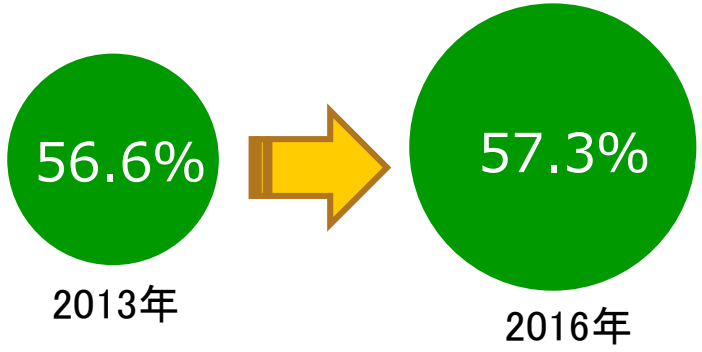
8-1　全体の成果
＜転倒予防＞

【図表26】過去1年間に自宅で転倒した経験のある高齢者の割合
（出典：久留米市民の事故やケガなどについての実態調査）

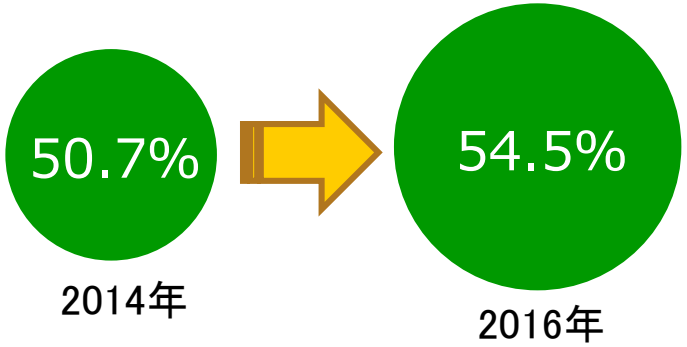


自宅で転倒した経験のある高齢者が減少

【図表27】転倒を予防するための対策を行なう人の割合
（出典：久留米市高齢者実態調査（2013年）
久留米市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（2016年）



【図表28】健康づくりのために工夫していることがある70歳以上の人の割合
（出典：久留米市民意識調査）

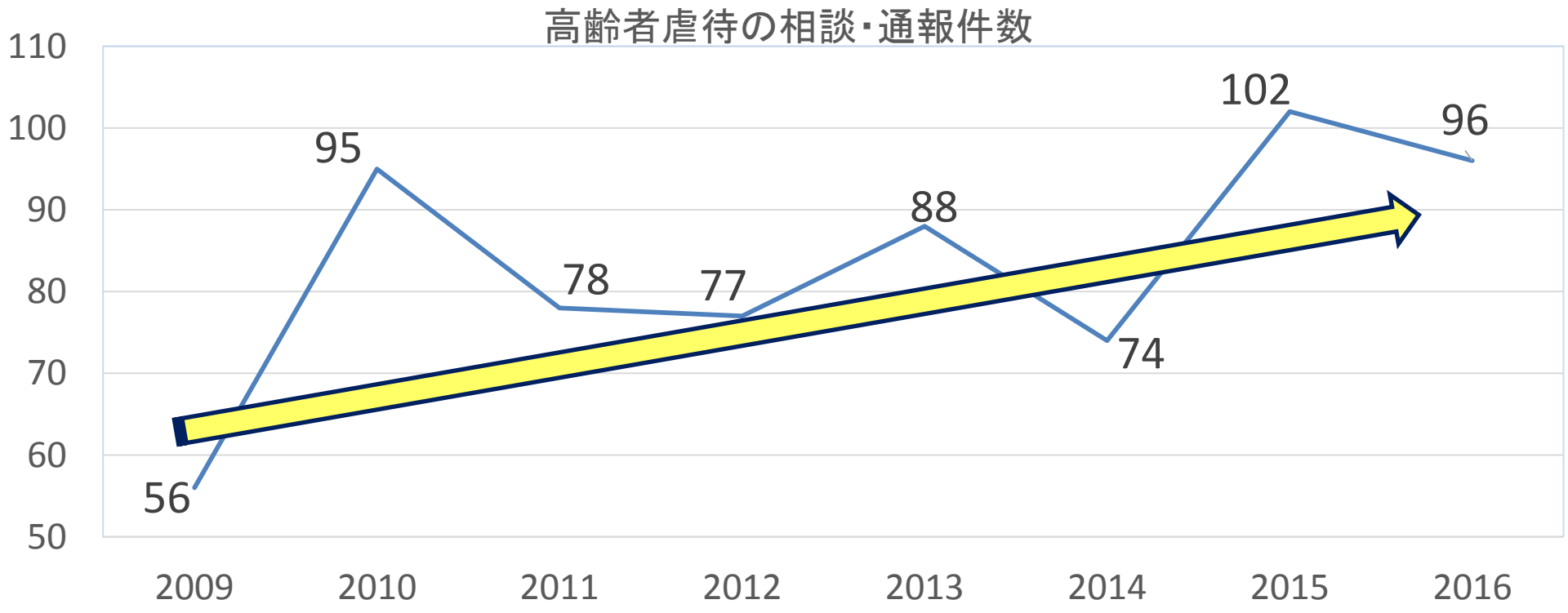


転倒防止等の対策を講じている高齢者が増加傾向

8-2　全体の成果
＜虐待の防止＞

【図表29】

（出典： 2008～2016年長寿支援課統計資料）



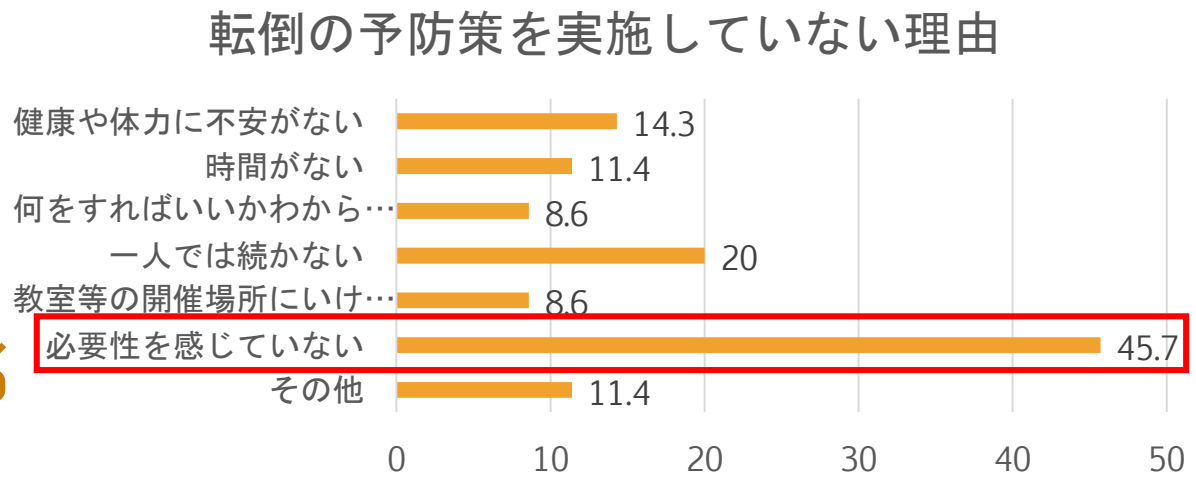
高齢者の虐待に関する相談・通報件数は増加傾向

9-1. 2017年10月の事前指導での助言

１.転倒の不安があるのに対策していない理由を把握する

2017年度実施の「久留米市ＳＣ実態調査」で把握

「必要性を感じていない」が46％



２.転倒予備軍への対応

活動団体へ講師を派遣し、自主的・継続的な活動へつなげている

9-2. 2017年10月の事前指導での助言

３.高齢者の「溺死・溺水」への対応を

【年齢層別外的要因による死亡原因】

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
60～69歳	自殺	溺死・溺水	窒息	交通事故 転倒・転落	その他
70～79歳	溺死・溺水	自殺	窒息	交通事故	転倒・転落
80～89歳	溺死・溺水	窒息	転倒・転落 その他	自殺	交通事故
90歳～	転倒・転落	窒息	溺死・溺水	その他	自殺 交通事故

60歳以上の死亡原因の上位となっている

何らかの対応を！

10　認証取得後の変化・気付き

【転倒予防】
◆地域における転倒予防活動を行う機会が増え、参加者が増加

【高齢者の虐待防止】
◆微増ではあるが、虐待に対する市民の意識向上
◆虐待通報・相談件数の増加
◆小学生など幅広い世代における認知症サポーターの増加

11　今後の目標・課題

【転倒防止】
◆さらなる転倒予防実践への働きかけの必要性
◆地域における自主的な介護予防事業活動の拡大
◆転倒予防の取り組みを通じた社会参画・参加への展開の必要性

【高齢者の虐待防止】
◆認知症の早期発見
◆認知症の人や介護者に対する安心の提供